

観光立国の実現は、地方(地域)から

焦点

「もっと旅したくなる日本を。確かな政策と実現力で、自民党は取り戻します。自民党はこんな全面広告を雑誌に掲載した(12月15日付)」。第46回衆院選における、観光業界向けアピールだ。その衆院選は自民党が294議席を獲得し、圧勝した。観光業界からは早くも「観光立国実現に向け、自民党は違いない。自民の底力をみせてほしい」と期待の声が挙がっている。

観光立国実現へ期待の声

民主党は解散勢力を大幅に下回る57議席となり、日本維新の会の54議席をわずかに上回ったにすぎない。自民党が勝ったというよりも、民主党が自滅した格好で、自民党の安倍晋三総裁も「完全に自民党に信頼が戻った」ということではない」と冷静に受け止めている。圧勝をおさることもなく、謙虚な姿勢で国政に臨んでほしいものだ。自民党は観光振興による地域活性化を政策公約に掲げ、「党総会政策集」の中で、観光の再建・強化をうたっている。弊紙はそれら政策の実現を強く望む。

衆院選で自民圧勝

訪日・国内観光の振興

新しい年を迎えるにあたって、観光立国推進基本法に基づく基本計画の主要な指標に沿って現状を概観したい。2012年の訪日外客数は、東日本大震災からの回復が進んだものの、尖閣諸島をめぐる問題などで目標の900万人を下回るのが確定した。1千万人の目標を掲げて03年にヒット・ジャパン事業を開始したが、いまだ達成できていない。隣国の韓国は、訪韓外客数が12年に初めて1千万人を超えた。日本を上回る観光予算や海外拠点を増やしている韓国は、観光立国に先を越された。

競争力の強化待ったなし

競争力の低下が懸念されている。アジア太平洋地域の開港数に占めるシェアは20年前に約50%だったが、近年では20%台。大型会議施設や人材への投資の面で韓国に遅れをとっている状況だ。国内観光は、日本人の観光旅行の宿泊数を指標としているが、近年低調に推移している。震災に際して観光の力で地域を復興させようというムードが広がったと、広域的な観光地帯づくりが拡大していることなどの成果は上がっているものの、市場の維持・拡大に課題が多い。各分野を担う観光産業の競争力強化では、観光庁が有識者や企業と協議検討を立ち上げるなど、市場環境の变化に伴って経営の高度化や人材

2013年の観光業界 注目の話題はこれだ

今年のNHK大河ドラマは「八重の桜」。津藩の砲術師範の子に生まれ、会津戦争時に男装して銃を片手に奮戦、「幕末のジャニーズ・タレント」と呼ばれ、後に同志社大学を創立する新島襄と結婚した山本(新島)八重の生涯を描いた作品だ。主な舞台となるのは福島県。地元では「大河ドラマ館」を開設したり、八重ゆかりの地をPRしたりするなど、ドラマによる誘客効果に大きな期待を寄せている。

東北観光復活の起爆剤に

福島県では現在、JRのステーションキャンペーン(DC)の誘致も進んでいる。開港を目指すのは2年後の2015年。実現すれば、来年はフレキヤンベンディング、今年の大河と合わせて3年間、県内で大きな話題が続くことになる。同県観光交流課の担当者は「昨年の旅フェア日本で、来年の大河ドラマ、再来年のフレキシビリティ、3年計画で観光客を震災前の水準に回復させたい」と話した。DCの開催が決まるのは今年3月末ごろという。東日本大震災と福島第1原発事故は、福島県を中心とした東北地方の観光に大きく暗い影を落とした。その影響はまだまだ残ったままだ。被害を払拭しようと国土交通省など官民は昨年3月から、東北全域を博覧会場に見立てた「東北観光博」を開催。観光庁によると、3・4月の7カ月間に約9803億円の経済波及効果をもたらしたという。

大河ドラマと福島DC誘致

口コミ相談窓口を開設

楽天トラベルが12年10月1日に、じゃらんnetが11月1日に宿泊施設向けの口コミ相談窓口をそれぞれ設置した。事実と異なる内容や、施設をおとめることを目的とした内容の投稿などが各サイトの口コミ掲示板に寄せられた場合、宿泊施設からの相談に応じ、削除などの対応を行う。相談窓口の設置は、全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会(全旅連)青年部による1年半に及ぶ粘り強い交渉が結果したものだ。

楽天、じゃらんの決断歓迎

f m o u t h を意味していた。インターネット社会の現代では、ブログやSNS、BBS(掲示板)などに書き込まれるレビュー(Review)と呼ばれる意見も口コミと呼ばれるようになった。米経営者のコトラーは著書「ホスピタリティと観光のマーケティング」の中で「ホスピタリティ製品を購入する顧客は前もってその製品を体験していないことに不安を感じる」と指摘している。過去の消費(宿泊)経験者の感想を参考にできる口コミは、この不安を払拭できる魔法のツールと言えるかもしれない。また旅館ホテルは従来から口コミの威力を高く認識し、紹介した消費者を推薦、紹介してくれることを望んでいた。



今年もよろしく
お願いいたします

TOPTOUR

トップツアー株式会社

トップツアー協定旅館ホテル連盟

出会い、発見、そして感動。